

1

過去形・過去進行形

◆指導ページ P.2～7◆

【主な学習内容】

- ◎一般動詞の文と be 動詞の文の過去形について確認する。
- ◎過去進行形の肯定文・否定文・疑問文の表し方について学ぶ。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① be 動詞の過去形・② be 動詞の過去形の疑問文・③ be 動詞の過去形の否定文</p> <p>☆ be 動詞の過去形…主語が I, 3 人称単数→「was」／主語が you, 複数→「were」</p> <p>☆ 「AはBでした」…「イコール」の意味で使う be 動詞の文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はそのときとても忙しかったです。 → I was very busy then. <p>☆ 「AはBにいました」…「存在する」という意味で使う be 動詞の文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちはそのとき教室にいました。 → We were in the classroom then. <p>☆ be 動詞を使った過去形の疑問文→ be 動詞を主語の前に置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは3年前に病気でしたか。 → Were you sick three years ago? Yes, I was. / No, I wasn't[was not]. <p>☆ be 動詞を使った過去形の否定文→ was / were のあとに not を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は去年彼女の友人ではありませんでした。 → He wasn't her friend last year. 	<p>● was not の短縮形</p> <ul style="list-style-type: none"> → wasn't <p>were not の短縮形</p> <ul style="list-style-type: none"> → weren't
<p>④ 規則動詞・不規則動詞の過去形・⑤ 一般動詞の過去形の疑問文</p> <p>⑥ 一般動詞の過去形の否定文</p> <p>☆ ぶつう原形の語尾に -(e)d をつけて過去形にする 一般動詞→規則動詞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼女の弟は昨夜夕食前テレビを見ました。 → Her brother watched TV before dinner last night. <p>☆ 不規則な変化をして過去形にする 一般動詞→不規則動詞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼は昨日その美しい写真を撮りました。 → He <u>took</u> the beautiful pictures yesterday. <p>☆ 一般動詞の過去の疑問文の作り方→〈Did + 主語 + 動詞の原形～?〉</p> <p>※ 主語による「Do」「Does」の使い分けは、過去時制にはない。主語が何であれ「Did」を使う。</p> <p>[疑問文] 彼の名前を知っていましたか。→ Did you know his name?</p> <p>[答え方] はい、知っていました。/ いいえ、知りませんでした。Yes, I did. / No, I didn't.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問詞を使うときは、それを文頭に置く。 ・あなたは放課後に何をしましたか。→ What did you do after school? <p>☆ 一般動詞の過去の否定文の表し方→〈主語 + did not [didn't] + 動詞の原形～?〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[肯定文] Jim studied English at home last week. ・[否定文] Jim didn't study English at home last week. (didn't は did not の短縮形) 	<p>●一般動詞の過去形は、主語の人称や単数複数の違いによって形がかわることはない。</p> <p>●規則動詞の過去形 -ed の発音</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 無声音(f,k,p,s など)のあと <ul style="list-style-type: none"> ・[t ト] helped[helpt ヘルプト] ② 有声音(f,k,p,s など)のあと <ul style="list-style-type: none"> ・[t ド] listened[lísnd リスンド] ③ [t], [d]のあと <ul style="list-style-type: none"> ・[id] wanted[wántid ワンティド]
<p>⑦ 過去進行形・⑧ 過去進行形の疑問文と否定文</p> <p>☆ 「～していた」という意味の過去進行形の用法→〈主語 + be 動詞(was / were) + ～ ing〉で表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はそのとき公園で彼といっしょにテニスをしていました。 → I was playing tennis with him in the park then. <p>☆ 過去進行形の疑問文の作り方→〈be 動詞(Was / Were) + 主語 + ～ ing〉で表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼女はそのとき駅の近くで歩いていましたか。 → Was she walking near the station then? Yes, she was. / No, she wasn't. <p>☆ 過去進行形の否定文〈主語 + be 動詞(was / were) + not + ～ ing〉で表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼らはそのとき家でテレビを見ていませんでした。[過去進行形] → They weren't watching TV at home then. <p>Ⓢ関連</p> <p>疑問詞がついた過去進行形の疑問文では、疑問詞を文頭に置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたはそのとき台所で何をしていましたか。 私は夕食をつくっていました。 → What were you doing in the kitchen then? I was cooking dinner. ・誰がそのとき教室で音楽を聞いていましたか。 それらの生徒たちです。 → Who was listening to music in the classroom then? Those students were. 	<p>●進行形にできない動詞</p> <p>→状態や感情などを表す動詞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 好きだ… like ② 愛する… love ③ 知っている… know ④ ほしい… want ⑤ 見る… see ⑥ 持っている… have

2

未来・助動詞

◆指導ページ P.8～13◆

【主な学習内容】

- ◎未来表現の be going to と助動詞 will との微妙な意味の違いについて、理解の深化に努める。
- ◎助動詞の意味と書き換え表現、未来の助動詞を用いた慣用的な疑問表現について学ぶ。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 未来を表す<will + 動詞の原形>・② will の疑問文と否定文</p> <p>③ 未来を表す<be going to + 動詞の原形>・④ be going to の疑問文と否定文</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 「～するでしょう」「～するつもりです」という意味の未来の文の作り方 →<will + 動詞の原形>で表す。</p> <p>※ 主語の人称や単数・複数にかかわらず、常に動詞は原形になる。</p> <p>☆ 「～するでしょうか」「～するつもりですか」という意味の will を用いた疑問文 →<Will + 主語 + 動詞の原形～?>で表す。 ・あなたは明日忙しいのですか。→ Will you busy tomorrow? ・はい、忙しいです。/ いいえ、忙しくありません。→ Yes, I will. / No, I will not[won't].</p> <p>☆ 「～しないでしょ、」「～するつもりはありません」という意味の will を用いた否定文 →<主語 + will not[won't] + 動詞の原形～.>で表す。</p> <p>☆ will を用いず、「～するでしょう、」「～するつもりです」という意味の未来の文の作り方 →<be going to + 動詞の原形>で表す。</p> <p>☆ 「～するでしょうか」「～するつもりですか」という意味の、be going to を用いた疑問文の作り方→<be 動詞 + 主語 + going to + 動詞の原形～?>で表す。 ・彼は明日東京へ行くつもりですか。→ Is he going to go to Tokyo tomorrow? ・はい、行きます。/ いいえ、行きません。→ Yes, he is. / No, he isn't.</p> <p>☆ 「～しないでしょ、」「～するつもりはありません」という意味の be going to を用いた否定文の作り方→<主語 + be 動詞 + not + going to + 動詞の原形～.>で表す。</p> </div> <p>⑤ Will you ～? と Shall I ～? ・⑥ 助動詞 ・⑦ 助動詞の働きをする語句</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ Will you ～? の意味</p> <p>① 未来時制の疑問文</p> <p>② 依頼…「～してくれませんか」という意味</p> <p>③ 勧誘…「～しませんか」という意味… Won't you ～? の形でも用いられる。</p> <p>☆ Shall I ～? の意味…提案「(私が)～しましょうか」</p> <p>☆ Shall we ～? の意味…勧誘「(いっしょに)～しましょうか」</p> <p>☆ 助動詞 can の意味</p> <p>① 能力・可能…「～することができる」</p> <p>② 許可…「～してもよい」</p> <p>☆ 助動詞 could …助動詞 can の過去形</p> <p>☆ be able to の意味…能力・可能「～することができる」 ・否定文は<主語 + be 動詞 + not able to + 動詞の原形>で表す。</p> <p>☆ 助動詞 may の意味</p> <p>① 許可…「～してもよい」… May I use this pen? (Can I ～?とも言う)</p> <p>② 推量…「～かもしれない」</p> <p>☆ 助動詞 must の意味</p> <p>① 義務…「～しなければならない」(否定文<must not>→禁止…「～してはいけない」)</p> <p>② 推量…「～にちがいない」</p> <p>☆ have to の意味</p> <p>※ 助動詞 must とほぼ同じ、「～しなければならない」という意味。to の直後は動詞の原形。主語が3人称単数の場合は has to になる。</p> <p>※ 過去や未来、否定の文の表し方</p> <p>① 過去…「～しなければならないかった」→[had to] (must には過去形がない)</p> <p>② 未来…「～しなければならないだろう」→[will have to] (will must は不可)</p> <p>③ 否定…「～する必要がない、～しなくてもよい」→[don't / doesn't have to]</p> <p>☆ would like to …「～したいのですが」</p> <p>☆ had better …「～したほうがよい」</p> <p>☆ should …「～すべきである」</p> </div>	<p>◎動詞の形として現在形と過去形はあるが、未来形はない。これから起こることを表す場合は、助動詞の will や be going to を使って、未来を表すことになる。</p> <p>◎助動詞willの意志未来は、前もつての計画性がない、その場で急に決断した意志を表す。</p> <p>◎主語 + be 動詞の部分は、短縮形を用いてもよい。</p> <p>◎ will can のように助動詞を2つ並べることはできない。</p> <p>◎ Shall we ～? の文 = Let's ～.(～しましょう)</p> <p>◎ Can you ～?[依頼] …「～してくれませんか」 Could you ～?[丁寧な依頼] …「～していただけませんか」</p> <p>◎ couldn't = could not の短縮形</p> <p>◎ mustn't = must not の短縮形</p> <p>◎ You must not ～. は、否定命令文 Don't ～. に書き換えが可能である。</p>

3

不定詞・動名詞

◆指導ページ P.14～19◆

【主な学習内容】

- ◎不定詞の名詞的、副詞的、形容詞的用法を確認し、不定詞の応用への備えとする。
- ◎不定詞だけ、動名詞だけ、不定詞も動名詞も目的語にとれる動詞、それぞれについて確認する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 不定詞の名詞的用法・② 不定詞の副詞的用法・③ 不定詞の形容詞的用法</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 不定詞の形…〈to〉+〈動詞の原形〉</p> <p>※ 文中では名詞、副詞、形容詞と同じ働きをする。</p> <p>☆ 不定詞の名詞的用法…「～すること」の意味で、動詞の目的語、文の主語や補語になる。</p> <p>☆ 名詞的用法の訳し方…直前の動詞とのつながりにより、より自然な日本語に訳すこと。</p> <p>① like + to 不定詞…「～することを好む」→「～するのが好きだ」</p> <p>② want + to 不定詞…「～することを欲する」→「～したい、～したがつている」</p> <p>③ begin(start) + to 不定詞…「～することを始める」→「～し始める」</p> <p>④ try + to 不定詞…「～することを試みる」→「～しようとする」</p> <p>※ 不定詞の否定形…not + to 不定詞＝「～しないこと」</p> <p>☆ 主語になる不定詞…主語になる不定詞は3人称単数扱いになる。</p> <p>☆ 補語になる不定詞…be 動詞の直後に to 不定詞を置いて「～すること」の意味を表す。</p> <p>※ 補語とは…「AはBです。」[A is B.]の文でBにあたる語。主語の内容を補足説明する。</p> <p>☆ 不定詞の副詞的用法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～するために」の意味で、動詞を修飾する副詞の働きをする。 ・私はジムに会いにその公園へ行った。→ I went to the park to see Jim. ・不定詞〈to see〉が動詞 went を修飾し、「会うために行った」という意味になる。 <p>☆ 感情の原因・理由を表す不定詞の副詞的用法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感情を表す形容詞の直後に to 不定詞を置き、「～して」という感情の原因を表す。 ・私はその知らせを聞いて幸せだった。→ I was happy to hear the news. ・「幸せ」という感情を表す形容詞 happy を不定詞〈to hear〉が修飾し、「幸せ」になった理由を説明している。 <p>☆ 不定詞の形容詞的用法</p> <p>意味と用法…不定詞が形容詞の働きをして、(代)名詞のあとにつき、その(代)名詞を修飾し、「～するための、～すべき」の意味を表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は何か食べるものが欲しい。→ I want something to eat. ・名詞 something を不定詞〈to eat〉が後ろから修飾し、「食べるための何か」→「何か食べるもの」となる。 </div> <p>④ 動名詞</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① 動名詞だけを目的語にとる動詞</p> <p>…enjoy / stop / finish / practice / mind / give up など</p> <p>② 不定詞だけを目的語にとる動詞</p> <p>…want / hope / wish / decide / promise / expect など</p> <p>③ 動名詞も不定詞も目的語にとる動詞</p> <p>I 意味が同じもの…like / begin / start / love / continue など [書き換え可能]</p> <p>II 意味が異なるもの…remember / forget / try など [書き換え不可能]</p> </div> <p>⑤ 動名詞の用法</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>☆ 動名詞とは…「～すること」の意味を表す[動詞の～ing形]のこと。動詞の目的語として用いる。</p> <p>① 文の主語…「～することは」の意味で用いる。主語は3人称単数として扱う</p> <p>② 文の補語…「～することである」という意味で用いる。</p> <p>③ 前置詞の目的語…〈前置詞+～ing〉の形で用いる。</p> </div>	<p>●不定詞は、主語や時制と無関係に、常に [to] + [動詞の原形]。</p> <p>●不定詞を導くその他の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・would like + to 不定詞 …できれば～したいのですが。(want + to 不定詞の丁寧表現) ・need + to 不定詞 …～する必要がある。 <p>●stop + 動名詞</p> <p>=～するのをやめる</p> <p>・stop + to 不定詞</p> <p>=～するために立ちどまる</p> <p>●動名詞の作り方</p> <p>→進行形で使う[動詞のing形]</p> <p>と作り方は同じである。</p> <p>●文の補語となるとき(be動詞+～ing)の形になるので、進行形との区別に注意する。</p> <p>●不定詞は前置詞のあとに置かない。</p>

4

There is ~ . ・ 文構造

【主な学習内容】

◆指導ページ P.20 ~ 25 ◆

◎ There is[are] ~ . の肯定文・疑問文・否定文の表し方を学ぶ。

◎ SV・SVC・SVO・SVOO の文について、文の要素に加え、それぞれの文構造の仕組みと相違点を明らかにして英文の理解を深める。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① There is[are] ~ . の文・② There is[are] ~ . の疑問文・③ There is[are] ~ . の否定文</p> <p>☆ 「～がある[いる]」という意味を表す文→〈There is[are] ~〉で始める。 ・ be 動詞に続く語(句)が単数なら is を、複数なら are を用いる。 ・ 「～があった[いた]」と、過去を表す場合は、be 動詞を過去形にする。</p> <p>☆ There is[are] ~ . の書き換え→ have[has] を用いてほぼ同じ意味に。 ・ There are four seasons in Japan. → Japan has four seasons.</p> <p>☆ There is[are] ~ . 文の疑問文の作り方→ be 動詞を文頭に置く。</p> <p>☆ 「いくつの[何人の]～がありますか[いますか]」という意味を表す文 → 〈How many + 名詞の複数形 + are there ~ ?〉で表し、There is[are] を使って答える。 ・ この学校に何人の生徒がいますか。 / 300 人くらいです。 ・ How many students are there in this school? / There are about 300.</p> <p>☆ There is[are] ~ . 文の否定文の作り方→ be 動詞の後に not を入れる。</p>	<p>◎肯定文中の some は、疑問文・否定文で使うとき any に変える。 ・ There are some students on the school ground. → Are there any students on the school ground?</p> <p>◎ not any = 「一つ[一人]も～ない」</p>
<p>④ 文構造(SV・SVC・SVO の文)</p> <p>☆ 文の構造…主語(S)、動詞(V)、補語(C)、目的語(O)の4要素があり、これらを組み合わせて5つの文構造ができる。</p> <p>☆ SV の文…「…は～する。」の意味を表し、主語と動詞のみで成り立つ文構造。動詞の直後にさまざまな修飾語句(副詞句)がつくことが多い。 ・ 私たちは日曜日に海で泳ぎます。→ We swim in the sea on Sunday. [一般動詞の文] ・ 彼女は勉強するためにアメリカにいます。→ She is in America to study. [be 動詞の文]</p> <p>☆ SVC の文とは…「…は～である。」という意味を表し、主語と動詞のほかに補語を必要とする文構造。補語は主語の内容や状態を説明する語のことで、意味の上で「主語=補語」の関係になる。 ・ 彼女は英語の先生です。→ She is an English teacher. [動詞が be 動詞の SVC の文]</p> <p>☆ SVO の文とは…「…は(人、もの)を～する。」という意味を表し、主語と動詞と目的語によって成り立つ文構造。目的語は動詞が働きかける対象であり、不定詞句や動名詞句になることもある。 ・ 彼女はテニスをするのが好きです。 → She likes to play tennis.(不定詞句 to play tennis が目的語) → She likes playing tennis.(動名詞句 playing tennis が目的語)</p>	<p>「in the sea」も「on Sunday」も修飾語句(副詞句)である。</p> <p>◎SV の文での be 動詞の意味は「～にいる(ある)」になる。</p> <p>◎主語「She」 = 補語「an English teacher」</p>
<p>⑤ 文構造(SVOO の文)</p> <p>☆ SVOO の文…「(人)に(もの)を～する。」の意味を表し、動詞に前置詞を介さず2つの目的語を連続させる文構造。語順は、〈主語+動詞+間接目的語(人)+直接目的語(もの)〉になる。 ・ 彼女は私たちにこれらのりんごを買ってくれました。→ She bought us these apples.</p> <p>☆ SVOO から〈SVO + to[for] + (人)〉への書きかえ ・ 私は彼女にプレゼントをあげました。 → I gave her a present.(SVOO)→ I gave a present to her.(SVO + to + 人)</p> <p>① 前置詞 to を使う一般動詞… teach / tell / sell / show / send / lend / give ② 前置詞 for を使う一般動詞… get / make / buy / find ③ 前置詞 of を使う一般動詞… ask</p>	<p>◎間接目的語には、「人」がくる場合が多いが、「動物」などがくる場合もある。</p>

5

比較

【主な学習内容】

◆指導ページ P.26～31◆

- ◎原級を用いた同等比較の文について、AとBを比較して、程度や数量が同じであることを表す場合の表現方法を確認する。
- ◎比較級・最上級を用いた文について、比較級・最上級の作り方、thanを用いた比較構文、最上級を用いた構文や表現を確認する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 比較級・最上級</p> <p>☆ 比較級・最上位の作り方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ふつう→比較級なら -er, 最上級なら -est を語尾につける。 ② 語尾が e のとき→比較級なら r, 最上級なら -st を語尾につける。 ③ 語尾が〈子音字 + y〉のとき→y を i にかえて, 比較級なら -er, 最上級なら -est をつける。 ④ 語尾が〈短母音 + 子音字〉のとき→語尾の子音字を重ねて, 比較級なら -er, 最上級なら -est をつける。 ⑤ つづりが長い語→比較級なら more, 最上級なら most をそれぞれ前につける。 ⑥ 特別な形になるもの <ul style="list-style-type: none"> ・ good(よい)・well(健康な, 上手に)→ better - best, bad(悪い)・ill(病気の)→ worse - worst, many(多数の)・much(多量の)→ more - most, little(少量の)→ less - least 	<p>● more・most を用いる単語例</p> <ol style="list-style-type: none"> ① interesting …面白い ② beautiful …美しい ③ useful …役に立つ ④ carefully …注意深く ⑤ quickly …すばやく ⑥ slowly …ゆっくり ⑦ popular …人気のある ⑧ famous …有名な ⑨ important …重要な ⑩ difficult …難しい
<p>② 比較級の文</p> <p>☆ 〈比較級 + than …〉という形で、2つのものを比べて「…より～」という意味を表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形容詞…[ふつうの文] この花は美しい。→ This flower is beautiful. [比較級の文] この花はあの花より美しい。→ This flower is more beautiful than that one. ・ 副詞…[ふつうの文] 彼女は早く起きます。→ She gets up early. [比較級の文] 彼女は私より早く起きます。→ She gets up earlier than I. <p>☆ 「AとBではどちらのほうが～ですか。」という意味の文→〈Which[Who]～+比較級, A or B?〉で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あなたとケンではどちらのほうが背が高いですか。→ Who is taller, you or Ken? 	<p>●人についてたずねるときは、who を使う。</p>
<p>③ 最上級の文</p> <p>☆ 〈the + 最上級 + in[of]…〉という形で、3つ以上のものを比べて、「…の中で一番[最も]～」という意味を表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形容詞…[ふつうの文] 彼女は親切です。→ She is kind. [最上級の文] 彼女はこのクラスの中で一番親切です。→ She is the kindest in this class. ・ 副詞…[ふつうの文] 彼は速く泳ぎます。→ He swims fast. [比較級の文] 彼は5人の中で一番速く泳ぎます。→ He swims the fastest of the five. <p>☆ 「他のどの…より～だ。」という意味の文</p> <ul style="list-style-type: none"> →〈比較級 + than any other + 名詞の単数形〉で最上級の意味を表す。 ・ この絵は他のどの絵より美しい。→ This picture is more beautiful than any other picture. ・ この絵はすべての中で一番美しい。→ This picture is the most beautiful of all. 	<p>●つづりの長い語は、比較級は more, 最上級は most をその単語の前につける。</p>
<p>② as ~ as …の文</p> <p>☆ 〈as ~ as …〉の文…「…と同じくらい～」の意味を表す。「～」の部分に形容詞や副詞の原級がくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ トムはボブと同じくらいの背の高さです。→ Tom is as tall as Bob. <p>☆ 〈as ~ as …〉の否定文…〈not as ~ as …〉で、「…ほど～でない」という意味になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私の兄は私の父ほど背が高くありません。→ My brother is not as tall as my father. [私の父の方が背の高いことを表している。] 	<p>●原級とは、活用変化していない形容詞や副詞のもとの形のこと。</p>

6

接続詞・受動態

【主な学習内容】

◆指導ページ P.32 ~ 37◆

- ◎等位接続詞と従属接続詞, 接続詞 that の用法と時制の一致について習得する。
- ◎受動態と能動態の相違点, 否定文と疑問文の作り方を確認する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>1 いろいろな接続詞</p> <p>☆ 等位接続詞とは…語と語, 句と句, 節と節をたがいに対等の関係で結ぶ接続詞。</p> <p>① and = 「～と…」 「～, そして(それから)…」 [物事の並列や継起を表す]</p> <p>② but = 「～, しかし(だが)…」 [予想と反対の内容を結ぶ]</p> <p>③ or = 「～か…」 「～, または(それとも)…」 [物事についての選択を示す]</p> <p>☆ 副詞節を導く接続詞…〈接続詞 文 A, 文 B.〉の形か, 〈文 B + 接続詞 文 A.〉の形になる。前者の場合, コンマ(,) で区切る。</p> <p>① when = 「～する[した]とき」の意味で, 「時」を表す。</p> <p>② if = 「もし～ならば」の意味で, 「条件」を表す。</p> <p>③ because = 「～だから, ～なので」の意味で, 「理由・原因」を表す。</p> <p>④ before・after = 「～する前に」, 「～したあとで」の意味で, 「時」を表す。</p>	<p>●句とは…</p> <p>2語以上が集まってまとまった意味を表す語群で, [主語+動詞] の関係を含まないもの。名詞句・副詞句・形容詞句がある。</p> <p>●節とは…</p> <p>2語以上が集まってまとまった意味を表す語群で, [主語+動詞] の関係を含むもの。名詞節・副詞節・形容詞節がある。</p>
<p>2 接続詞 that</p> <p>☆ 〈that + 主語 + 動詞～〉で, that は 「～ということ」 の意味を表し, 文の中心の動詞の目的語となる。</p> <p>・私は彼はここに来ないと思います。(that以下が動詞thinkの目的語となる。)</p> <p>→ I don't think that he comes here.</p> <p>※ 「～ではないと思う」と表すときは, ふうふう主節のthinkを否定し, that以下は肯定文で表す。</p> <p>☆ 接続詞 that の省略…省略されても文の意味に変化はない。</p> <p>・彼女は明日京都に出立するそうです。→ I hear she will leave for Kyoto tomorrow.</p> <p>☆ 時制の一致…文の中心となる動詞が過去形なら, that 以下の時制も過去形となる。</p> <p>・「私は父が忙しいと知っている」を過去形にする場合</p> <p>・ I know that my father is busy. → I knew that my father was busy.</p> <p>☆ 〈主語 + be 動詞 + 形容詞 + that ～〉</p> <p>・形容詞の直後に置くこともできる。</p> <p>☆ 〈be 動詞 + 形容詞 + (that) ～〉のいろいろな言い方</p> <p>・「～をうれしく思う」 → be happy (that)～</p> <p>・「～をすまなく思う」 → be sorry (that)～</p> <p>・「～ではないかと心配する」 → be afraid (that)～</p> <p>・「～を確信している(きっと～だと思う)」 → be sure (that)～</p>	<p>● that 節を目的語にとる主な動詞</p> <p>① 思う… think</p> <p>② 知っている… know</p> <p>③ 望む… hope</p> <p>④ 信じる… believe</p> <p>⑤ 言う… say</p> <p>⑥ そうだ… hear [I hear の形で]</p> <p>⑦ 示す… show</p> <p>⑧ 理解する… understand</p> <p>⑨ 感じる… feel</p> <p>⑩ わかる… find</p> <p>●主節が現在時制や未来時制のときに, 従属節の時制を主節のものに合わせるわけではない</p> <p>● that 節に助動詞を用いるときは, 助動詞の時制を操作する。</p>
<p>3 受動態</p> <p>☆ 態とは…ある事柄について, 誰(何)を中心に述べるかによって動詞の形が変わること。</p> <p>① 能動態…動作をするものを主語にして, 「～が…する, した」という関係を表す。</p> <p>② 受動態(受け身)…動作を受けるものを主語にして, 「～が…される, された」という関係を表す。</p> <p>☆ 受動態における動詞の形 → 〈be 動詞 + 過去分詞〉</p> <p>☆ 過去分詞とは…動詞の語形変化形(原形・現在形・過去形・～ing 形など)の1つで, 現在完了の文や受動態の文で用いる。使う動詞が -(e)d をつける規則変化か, 不規則変化かに注意する。</p> <p>☆ 現在の受動態…〈am [are / is] + 過去分詞〉で表す。「～される, ～されている」</p> <p>☆ 過去の受動態…〈was [were] + 過去分詞〉で表す。「～された, ～されていた」</p> <p>☆ by を用いる受動態…〈by + 行為者〉で表す。「～によって」</p>	<p>●受動態の文での副詞の位置</p> <p>…頻度を表す副詞は, be 動詞と過去分詞との間に置く</p> <p>●過去分詞が不規則変化する主な動詞</p> <p>・ (原形 - 過去形 - 過去分詞)</p> <p>・ give - gave - given</p> <p>・ buy - bought - bought</p> <p>・ cut - cut - cut</p>
<p>注意</p> <p>・ by のあとの行為者を表す代名詞には, 目的格を用いる。(by him, by her など)</p>	
<p>4 受動態の疑問文と否定文</p> <p>☆ 受動態の疑問文の表し方…〈be 動詞 + 主語 + 過去分詞～?〉</p> <p>☆ 受動態の否定文の作り方…〈主語 + be 動詞 + not + 過去分詞〉</p> <p>☆ 疑問詞で始まる受動態の疑問文の作り方は, be 動詞の前に疑問詞を置く。</p> <p>注意</p> <p>・ 能動態や受動態に変えるときは, 時制, 主語の人称・数, by などにつける。</p> <p>[能動態の文] Did you use this pen?</p> <p>[受動態の文] Was this pen used by you?</p>	